

看護部

Nursing Department

看護部長

秋山 智弥



その人らしさの尊重とチーム医療のコーディネートを重視し、患者さん一人ひとりに行き届いた看護を提供

健康増進と疾病予防、健康の回復、苦痛の緩和という看護部の基本責任を果たすため、人々を全人的にとらえ、看護の専門性をもって主体的に働きかける。その具体化のために、患者中心性、安全性、有効性、適切性、効率性、公平性を活動方針としている。

2014年度看護部目標

『看護の本質と自らの実践の質を問い直し、前進する』

1. プロフェッショナルとして自ら考え、自ら行動する
2. 看護の視点とアセスメントが見える記録を書く
3. 高度急性期を担う看護師として、EBN(Evidence Based Nursing 根拠に基づく看護)を推進する
4. 病棟移転・再編に備え、PNS(Partnership Nursing System パートナーシップ制看護提供方式)を推進する
5. 自らのキャリアパスを描き、やりがいをもって働き続ける

業務内容の特徴と実績

看護の質の向上

継続的で一貫性のある看護をめざして看護の標準化を図るとともに、いかなる場面でも看護の基本的役割が発揮できるジェネラリストの育成を図っている。また、安全で質の高い看護を提供するため、専門的な活動を推進するスペシャリストを確保、育成。高度な専門性が必要な領域にはその分野に特化した技術・知識を有した専任看護師を配置し、以下の分野で活躍中である。

①がん看護

がんサポートチームでの緩和ケアのコンサルテーション活動、化学療法や放射線療法を中心としたがん治療の看護を現場のエキスパートナースとともに実施。

②感染管理

専任の感染対策者および院内感染対策チーム(ICT)の一員として、感染対策を組織横断的に実施。

③退院支援

患者さんが退院後も安心して療養継続ができるよう、どのような医療管理・看護が必要かを考え、患者さんの自己決定支援ができるよう、必要な教育・コンサルテーションを実施。

④褥瘡対策

褥瘡専従管理者として、褥瘡対策チームの中心的役割を担い、部門の壁を超えた横断的な活動を展開。

⑤治験コーディネーター

治験患者用クリニカルパスを作成し、ケアの実践と治験の円滑な実施に努めるなか、契約治験件数も増加の傾向にある。

⑥看護システム

電子カルテシステムの中で、患者さんの療養生活支援に必要な情報を集積、整理するとともに、情報をチームでタイムリーに共有し、看護業務の標準化・効率化と、誤認防止など医療安全の向上を推進。

また、特定の看護分野について豊富な経験と高度な知識を持った専門看護師(5名)・認定看護師(26名)を配置している。

看護師の研修

看護師として生涯成長していくためのマングローブ型キャリアパスを構築し、ジェネラリストとして足腰を鍛えるための卒後3年間の段階的研修や一人ひとりの目標に焦点をあてたレベルアップ研修、エキスパート研修などを準備。また、独自のクリニカルラダー認定制度を有し、キャリアサポートに生かしている。

働きやすい職場づくり

ボトムアップ型の組織づくり、超過勤務の削減、有給休暇・夏季休暇の取得推進、交替制勤務の検討など、働きやすい環境を整え、離職防止に努めている。

その他の取り組み

看護部と人間健康科学系専攻との人事交流

「看護職キャリアパス支援センター(仮称)」準備プロジェクトを発足し、「看護実践」、「教育」、「研究」の3つの部会に分かれて、人事交流の仕組みづくりを行っている。「看護実践」では実習指導者研修を共同で行い、実習指導者のレベルアップに向けた支援体制を整備。「教育」では看護部、看護科学コース双方が積極的に交流し、共同研究できる環境を整えることによって、実践の場に還元できるような質の高い看護研究に取り組むことをめざしている。その他、最新のエビデンスを確認しながら、共同で看護業務手順の開発・更新を行っている。「研究」では学部教育から臨

床現場をイメージできるよう、人間健康科学科の演習・講義に看護師がファシリテーターや講師として参加している。

